



## 道の駅よこはまエリア地方創生拠点形成事業 ～下北半島縦貫道路の延伸に伴う道の駅を 核とした防災拠点づくり～



青森県県土整備部道路課  
石澤 徹

### 1 はじめに

「道の駅よこはま」がある青森県上北郡横浜町は、本州最北端の下北半島玄関口に位置する人口約4,300人の町で、菜の花作付面積が日本最大級を誇ることから、毎年5月に「菜の花フェスティバルinよこはま」が開催され、県内外から多くの観光客が訪れています。

道の駅よこはまは、「菜の花プラザ」の愛称で親しまれており、横浜町の観光・交流拠点としての役割を担うとともに、町の特産である菜の花を活かした商品開発にも積極的に取り組んでいます。また、平成28年1月に「地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの」として、国土交通省から県内初の重点「道の駅」に選定されました。

### 2 事業の背景

下北半島縦貫道路は、その名の通り下北半島を縦断し、下北半島の中心都市むつ市から横浜町を經由し、東北縦貫自動車道八戸線に接続する全長約70kmの地域高規格道路です。下北半島の産業・観光分野等の

発展を支援する役割が期待されることから、県ではこれまで順次延伸を進めてきており、現在、道の駅よこはまに直結する（仮称）横浜インターチェンジまでの供用へ向けて整備を進めています。

一方、道の駅よこはまは、平成23年3月の東日本大震災発生時には、北海道からの救援物資の中継拠点として機能したほか、平成24年2月に発生した豪雪で国道に400台を超える車両が約19時間半にわたり立ち往生した際には、避難場所として機能したことから、防災拠点としての機能強化が期待されました。

このため、青森県と横浜町は、下北半島縦貫道路の延伸を好機ととらえ、道の駅



道の駅よこはまエリア全景（写真左上の施設が道の駅よこはま）



平成24年2月の豪雪による国道での車両立ち往生



豪雪災害時のBCPタイムライン深化を目的とした机上訓練

よこはま周辺エリアを「産業振興」、「地域福祉」、「防災」の機能を有する地方創生拠点として整備することを目的とした「道の駅よこはまエリア地方創生拠点基本計画」を平成28年3月に策定し、これまで計画推進に取り組んできました。

### 3 事業の内容

ハード面では、災害時、避難者（道路利用者）約950人の受け入れを想定し、防災備蓄倉庫及びトイレ・休憩施設の新設、駐車場の新設及び拡張を行ったほか、ヘリポート及び非常用電源設備を備えた防災除雪ステーションを整備し、令和3年度内に全ての施設を供用しました。防災除雪ステーションには、下北半島縦貫道路及び並行する国道を除雪する全ての車両を格納し、下北半島縦貫道路の中間地点となる（仮称）横浜インターチェンジに直結するという地の利を活かし、豪雪時においても、迅速かつ効率的な除雪作業を行うことが可能となります。

ソフト面では、平成28年から毎年、横浜町で防災訓練を実施しており、消防、警察、自治体職員だけでなく、町民の方々にも避難誘導、避難所運営、炊き出し、応急手当講習会等に参加してもらうことで、住民の地域防災への意識を醸成し、自助・共助の体制構築につなげています。

さらに、道の駅よこはまエリアにおいて各機関が災害対応を確実に実施できるよう、令和2年度、災害時の業務継続計画（BCP）（「道の駅よこはまエリア業務継続計画」）を策定しました。これは、青森県内にある道の駅で初めて策定されたものです。

この業務継続計画を踏まえ、令和3年11月、道の駅よこはま「菜の花プラザ」職員



下北半島縦貫道路の概要図

や地元消防署を交えた豪雪災害対応訓練を実施しました。本訓練では、机上訓練のほか、菜の花プラザ職員が滞留車両を道の駅駐車場へ避難誘導する実地訓練を実施しました。

### 4 おわりに

下北半島縦貫道路の延伸に伴い、これまでインターチェンジ周辺地域への企業進出増加や、横浜町を訪れる観光客数の増加が見られてきました。さらに、近い将来（仮称）横浜インターチェンジの供用により、災害に強い道路ネットワークが延伸され、防災拠点である道の駅よこはまエリアとの一体的な運用により、安心・安全な県土づくりにつながるものと期待しています。